

区 分	分 野		科 目 名	1年		2年		合計	
			科 目	単位	時間	単位	時間	単位	時間
必修科目	ペット基礎分野	講義	犬 学 ・ 猫 学 学	1	30			1	30
			犬 種 ・ 猫 種 学 I	1	30			1	30
			小 動 物 概 論 I	1	30			1	30
			水 生 生 物 I	1	30			1	30
			解 剖 学	1	30			1	30
			公 衆 衛 生	1	30			1	30
			動 物 関 連 法 規	1	30			1	30
			グ ル ー ミ ン グ 基 礎 学 I	1	30			1	30
			グ ル ー ミ ン グ 基 礎 学 II	1	30			1	30
			犬 種 別 ト リ ミ ン グ 学 I	1	30			1	30
			健 康 管 理 学			1	30	1	30
			基 礎 看 護 学	1	30			1	30
			愛 玩 動 物 飼 養 管 理 学 I	1	30			1	30
			愛 玩 動 物 飼 養 管 理 学 II	1	30			1	30
			動 物 行 動 学	1	30			1	30
			小 動 物 飼 育 学 I	1	30			1	30
			愛 犬 飼 育 管 理 学			1	30	1	30
	キャリア基礎分野	実習	家 庭 犬 訓 練 I	1	30			1	30
			パ ビ ー ケ ア I			1	30	1	30
			グ ル ー ミ ン グ I	6	180			6	180
			実 務 研 修 I			1	30	1	30
			キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1	30			1	30
			キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	1	30			1	30
			キ ャ リ ア デ ザ イ ン III			1	30	1	30
			キ ャ リ ア デ ザ イ ン IV			1	30	1	30
			ビ ジ ネ ス マ ナ ー	1	30			1	30
			ビ ジ ネ ス 電 話	1	30			1	30
			基 本 I T 技 術 I			2	60	2	60
			基 本 I T 技 術 II			2	60	2	60
			総 合 学 習 I	1	30			1	30
			総 合 学 習 II			1	30	1	30
必 修 科 目 合 計				27	810	11	330	38	1,140
選択必修科目	トリマー分野	講義 実習	美 容 I	6	180			6	180
			美 容 II			9	270	9	270
			美 容 III			9	270	9	270
			犬 種 別 ト リ ミ ン グ 学 II	1	30			1	30
			ト リ マ ー 演 習 I			1	30	1	30
			ト リ マ ー 演 習 II			1	30	1	30
			犬 種 別 ト リ ミ ン グ 学 III			1	30	1	30
			犬 種 別 ト リ ミ ン グ 学 IV			1	30	1	30
			小 計	7	210	22	660	29	870
	トレーナー分野	講義 実習	訓 練 I			2	60	2	60
			訓 練 II			2	60	2	60
			家 庭 犬 訓 練 II	2	60			2	60
			家 庭 犬 訓 練 III			2	60	2	60
			家 庭 犬 訓 練 IV			2	60	2	60
			パ ビ ー ケ ア II			2	60	2	60
			ハ ン ド リ ン グ			2	60	2	60
			動 物 介 在 福 祉 学 I	1	30			1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 I	1	30			1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 II			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 II			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 III			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 III			1	30	1	30
			グ ル ー ミ ン グ II	3	90			3	90
			グ ル ー ミ ン グ III			3	90	3	90
			グ ル ー ミ ン グ IV			3	90	3	90
			小 計	7	210	22	660	29	870
	アドバイザー分野	講義 実習	小 動 物 概 論 II			2	60	2	60
			小 動 物 概 論 III			2	60	2	60
			水 生 生 物 II	2	60			2	60
			水 生 生 物 III			2	60	2	60
			水 生 生 物 IV			2	60	2	60
			愛 玩 動 物 飼 養 管 理 学 特 論			1	30	1	30
			小 動 物 看 護 学			1	30	1	30
			小 動 物 飼 育 学 II			1	30	1	30
			犬 種 ・ 猫 種 学 II			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 I	1	30			1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 I	1	30			1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 II			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 II			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 III			1	30	1	30
			動 物 介 在 福 祉 学 演 習 III			1	30	1	30
			グ ル ー ミ ン グ II	3	90			3	90
			グ ル ー ミ ン グ III			3	90	3	90
			グ ル ー ミ ン グ IV			3	90	3	90
			小 計	7	210	22	660	29	870
選択科目	ペット総合分野	講義 実習	ペ ッ ト ア ロ マ			1	30	1	30
			ペ ッ ト 経 営 学			1	30	1	30
			フ ー ド ア ド バ イ ザ ー			1	30	1	30
			愛 玩 動 物 飼 養 管 理 学 特 論			1	30	1	30
			損 害 保 険 学	1	30			1	30
			ア ニ マ ル ヘ ル パ ー			1	30	1	30
			実 務 研 修 II			1	30	1	30
	社会人基礎力分野	講義 実技 実習 研修	卒 業 研 究			1	30	1	30
			ビ ジ ネ ス 文 章 力			1	30	1	30
			論 理 的 思 考 力			1	30	1	30
			ビ ジ ネ ス 英 語			1	30	1	30
			イ ベ ン ト プ ロ デ ュ ー ス I	1	30			1	30
			イ ベ ン ト プ ロ デ ュ ー ス II			1	30	1	30
			企 業 研 究			1	30	1	30
			小 計	2	60	5	150	7	210
総 計 （必修＋選択必修＋選択）			ト リ マ ー 分 野	36	1,080	38	1,140	74	2,220
			ト レ ー ナ ー 分 野	36	1,080	38	1,140	74	2,220
			ア ド バ イ ザ ー 分 野	36	1,080	38	1,140	74	2,220

※選択科目は年度によって開講しない場合もある。

※総合学習Ⅰ・Ⅱは、宿泊研修やドッグショーなどの校外学習を対象とする。

※卒業の要件:必修科目1,140時間(38単位) 及び選択必修科目870時間(29単位)計2,010時間(67単位)以上の修得

科目名 ¹	水生生物Ⅰ			学科名 (コース名)	ペット総合科		学年	1 ¹ 学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分 ⁵	該当なし	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	30	該当資格名称 ¹	該当なし	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境（光・酸素・二酸化炭素など）を覚える。 癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		・魚類の分類・種類・飼養方法・水質管理を覚える。 ・水生生物特有の病気についてを覚える。 ・日本原産の観賞魚と海外原産の観賞魚の歴史についてを覚える。						
受講条件		ペット総合科在籍						
教科書名		該当なし			教材名 ¹	配布プリント		
設備名・機器名		ホワイトボード			関連サイト ¹	アクアジャーナル https://www.adana.co.jp/jp/aquajournal/		
関連前科目		該当なし			関連後科目 ¹	水生生物Ⅱ		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位 ²								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回	○月○日	自己紹介・授業開始について アクアリウム	自己紹介、授業の必要性。概要・目的・目標についての説明・進め方 ペットとアクアリウム 動物や水生生物に対する正しい知識の説明できる				一	
第2回	○月○日	アクアリウムの語源	歴史・養魚から観賞魚へ 水槽飼育と自然とのサイクルについて 観賞魚飼育の起源や歴史について理解し人と魚との関わりの変化を説明できる				一	
第3回	○月○日	魚の活動	生息環境と水・水合わせについて 魚にとっての水の重要性を理解し、水質や環境の変化が生き物に与える影響を説明できる				一	
第4回	○月○日	飼育方法、水槽について	水槽のサイクルとは、硬度と水温、飼育器具について 水槽・保温器具・照明器具・底床について 水槽内のサイクル（循環）を理解し、微生物やろ過装置による水質維持のしくみを説明できる				一	
第5回	○月○日	観賞魚と食用魚	魚の外観と特徴・名称 体長と体高 観賞魚と食用魚の違い 魚の外部構造（各部の名称や特徴）を正しく理解し、説明できる				一	
第6回	○月○日	魚の臓器とその働き	皮膚と鱗 エラ 内臓器について 魚のエラの構造と呼吸のしくみ水中での酸素の取り込みを理解し流れを説明できる				一	
第7回	○月○日	魚の感覚器	色・形・距離・味覚・臭覚・振動・水流・水圧 魚が水中でどのような情報を感知しているかを理解しそれぞれに対応する感覚器官を説明できるようにする。				一	
第8回	○月○日	金魚について	金魚の種類と品種改良 飼育の歴史、日本での生産地 金魚の基本的な種類を理解し、それぞれの特徴や見た目の違いを説明できる				一	
第9回	○月○日	錦鯉について	錦鯉の品種改良と歴史、選別と越冬 色揚げ・スビルナ・鱗の優勢 錦鯉の品種改良の歴史を理解し、どのようにして現在の錦鯉の多様性が生まれたかを説明できる				一	
第10回	○月○日	熱帯魚について 魚の導入	コイの仲間 特徴・食性・繁殖・分布 ナマズとドジョウの仲間 特徴・食性・繁殖・分布 魚の導入水合わせについて それぞれの特徴に基づいて適切な飼育方法を説明できる				一	
第11回	○月○日	熱帯魚について（カラシン目）	カラシン目について ピラニア・テトラ・カラシン メダカの仲間 卵胎生魚性 転換 カラシン目に分類される魚の代表例を挙げ、その特徴を説明できる				一	
第12回	○月○日	熱帯魚について（シクリッドの 仲間）	シクリッドの仲間について 繁殖・分布・特徴 アナバス・汽水魚・古代魚について 戦魚・肺魚・乾鰓 シクリッドの自然分布（アフリカ、南アメリカなど）と、生息環境の多様性を説明できる				一	
第13回	○月○日	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習 試験対策のポイントをまとめ、復習することができる				試験範囲説明	
第14回	○月○日	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験 単位認定試験を受験することができる				単位認定試験	
第15回	○月○日	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説 試験問題の答え合わせを行うことができる				試験解説	
成績評価方法 ²								
成績判定試験：第14回の授業内で実施（50分） 選択問題、空日記入問題 課題レポートを提出：課題内容が記載されているか、期日までに提出しているか 授業態度：減点方式（居眠り・授業中の私語・指示以外のスマホに触れる等への指導後、改善されない場合は2点減点） 出席：0回欠席（10点）、1回欠席（5点）、2回欠席（3点）、3回欠席（1点）とする 以上の総合得点が60点以上及び出席率80％であることを合格基準とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		1位	2位				70	秀（S）：100点～90点
②確認テスト							なし	優（A）：89点～80点
③課題レポート			1位	2位			10	良（B）：79点～70点
④授業態度				2位	1位		10	可（D）：69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）：59点以下
⑥出席				2位	1位		10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施

シラバス作成者	井田 亜由美	シラバス承認者	井田 亜由美	授業担当教員	細川 敏史			
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			
更新履歴								
シラバス更新履歴	更新理由		更新箇所		作成者	Checker(確認者)		

科目名	小動物飼育学Ⅰ			学科名 (コース名)	ペット総合科		学年	1学年
授業形態	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	民間検定	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	30	該当資格名称	愛玩動物飼養管理士2級	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	1 生態や習性の違う動物たちを飼育する時に注意すべき事項を学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	1 ・生態や習性、形態の違う動物たちの飼育を説明できる。 ・主体性を持って、動物たちのより良い飼育環境改善を行うことができるようになる。							
受講条件	1 ペット総合科在籍							
教科書名	1 愛玩動物飼養管理士2級 第2巻				教材名	1 PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ」(授業担当者作成)、プリント「動物を用いる実習及び飼育倫理規定<<一部抜粋>>」		
設備名・機器名	1 プロジェクター、スクリーン				関連サイト	1 環境省「動物の愛護と適切な管理」 https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/index.html		
関連前科目	1 なし				関連後科目	1 小動物飼育学Ⅱ		

授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目単位、実習・演習: 30コマ以上/単位

回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標	使用教科書・教材
第1回	○月○日	授業概要説明/主体性とは	授業の必要性・概要・目標・目的についての説明・進め方について主体性とは何か説明できる。	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 1回目」
第2回	○月○日	エキゾチックアニマルとは/ “食性”とは	小動物(エキゾチックアニマル)とはどのような動物をいふか説明できる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 2回目」
第3回	○月○日	飼育当番のルール	「動物の愛護及び管理に関する法律」第2条 基本原則を要約することができる。	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 3回目」
第4回	○月○日	ウサギの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のウサギの生態・習性を知り、本校におけるウサギの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 4回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第5回	○月○日	ハムスターの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハムスターの生態・習性を知り、本校におけるハムスターの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 5回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第6回	○月○日	モルモットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のモルモットの生態・習性を知り、本校におけるモルモットの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 6回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第7回	○月○日	チンチラの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のチンチラの生態・習性を知り、本校におけるチンチラの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 7回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第8回	○月○日	フェレットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のフェレットの生態・習性を知り、本校におけるフェレットの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 8回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第9回	○月○日	ハリネズミの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハリネズミの生態・習性を知り、本校におけるハリネズミの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 9回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第10回	○月○日	フクロモモンガの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のフクロモモンガの生態・習性を知り、本校におけるフクロモモンガの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 10回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第11回	○月○日	セキセイインコ・オカメインコの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のセキセイインコとオカメインコの生態・習性を知り、本校におけるセキセイインコとオカメインコの飼育方法で飼育ができる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 11回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第12回	○月○日	終生飼育を考える① 《グループワーク》	この授業を受けて、考えたこと感じたことをグループ単位で意見交換し、飼育の注意喚起ポスターを作成できる	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 12回目」 愛玩動物飼養管理士2級 第2
第13回	○月○日	終生飼育を考える② 《グループワーク》	前回の授業にて、グループ内でまとめた意見をクラス内で発表できる	Googleフォーム「グループワーク評価シート」
第14回	○月○日	授業振り返り/成績判定試験	授業振り返り後、成績判定試験(記述試験)(50分)	成績判定試験
第15回	○月○日	試験振り返り(解説)	試験問題解説	PowerPoint「小動物飼育学Ⅰ 15回目」

成績評価方法

² 成績判定試験: 第14回の授業内で実施(50分間) 記述試験 授業態度: 減点方式(遅刻・早退はその度に1点減点、居眠りや私語等への指導後、状況が変わらないようであれば2点減点) 作品: 第12-13回にて作成するまとめポスターを作成し、発表。評価基準や詳細は第11回にて提示・説明 出席: 欠席回数にてより加点(欠席0回=10点、1回=5点、2回=3点、3回=1点) 以上の総合得点が60点以上及び出席率80%であることを合格基準とする。							
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	1位	2位				60	秀(S): 100点~90点
②確認テスト						なし	優(A): 89点~80点
③課題レポート						なし	良(B): 79点~70点
④授業態度		2位	1位			20	可(D): 69点~60点
⑤作品		1位			2位	10	不可(E): 59点以下
⑥出席				1位		10	
						不合格の場合	再試験

シラバス作成者	徳永 安衣	シラバス承認者	北村 昌樹	授業担当教員	北村 昌樹
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/
更新履歴					
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)	
改1					

科目名	家庭犬訓練Ⅰ			学科名 (コース名)	ペット総合科		学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	該当なし	
教育課程区分	必修	単位数	1	時間数	30	該当資格名称	該当なし	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	犬とのふれ合いから、基本となる家庭飼養で必要なしつけ方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	病院、ショップで必要な基本的なしつけの実践ができる。 家庭での飼養に必要な基本的なしつけ方法（トイレトレーニング、ハウストレーニング、吠え癖・噛み癖などの問題行動の予防と修正）を習得し、日常的に実践できるようになる							
受講条件	ペット総合科在籍							
教科書名	該当なし				教材名	該当なし		
設備名・機器名	ホワイトボード				関連サイト	該当なし		
関連前科目	該当なし				関連後科目	家庭犬訓練Ⅱ		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1回	○月○日	授業開始について 初対面のワンちゃんとの接し方	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 モデル犬との接し方、実習中の注意事項（事故予防）、授業・成績について 初めて会うにはいけないこと この授業の必要性や目的を説明できる				-	
第2回	○月○日	訓練からみた犬の起源 ハウストレーニング	訓練からみた犬の起源（家畜化・共生・進化） リードの扱い方とカラーの選び ケージへの出し入れ方法を覚える ハウストレーニング方法の説明ができる				-	
第3回	○月○日	訓練からみた犬の起源 アイコンタクト（ステップ1）	野生から家畜化へ Yesの使い方、アイコンタクト（ステップ1）を覚える 犬の学習において「Yes」の意味と効果を理解する				-	
第4回	○月○日	訓練からみた犬の起源 アイコンタクト（ステップ2）	家畜化・共生・進化について アイコンタクト（ステップ2、3）の実践方法の説明ができる				-	
第5回	○月○日	犬の学習	観察学習、古典的条件づけについて トイレトレーニング、視符の使い方 トイレのしつけと視符の使い方を説明できる				-	
第6回	○月○日	犬の学習 道具的条件づけ ルアートレーニング	道具的条件づけについて ルアートレーニング 道具的条件づけの基本を理解し、ルアートレーニング方法の説明ができる				-	
第7回	○月○日	犬の学習 道具的条件づけ リードの使い方	道具的条件づけについて ルアートレーニング 道具的条件づけの基本を理解し、リード使い方の説明ができる				-	
第8回	○月○日	犬の感覚（嗅覚）	嗅覚について ウェイトの練習 犬の嗅覚の構造や能力について基礎知識の説明ができる				-	
第9回	○月○日	犬の感覚（視覚）	視覚について スタンド・ウェイトの練習 犬の視覚の構造や能力について基礎知識の説明ができる				-	
第10回	○月○日	犬の感覚（聴覚・味覚）	聴覚・味覚について ドアの出入り練習 犬の聴覚・味覚の構造や能力について基礎知識の説明ができる				-	
第11回	○月○日	犬の感覚（触覚）	触覚について カムの練習 犬の触覚の構造や能力について基礎知識の説明ができる				-	
第12回	○月○日	犬の先天的な能力 ボディーランゲージ	ボディー・ランゲージについて 犬の歩様について ボディーランゲージとは何か説明できる				-	
第13回	○月○日	犬の先天的な能力 カーミングシグナル	カーミングシグナルについて 復習 カーミングシグナルを5種類挙げることができる				試験範囲説明	
第14回	○月○日	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験 成績判定試験を受験することができる				成績判定試験	
第15回	○月○日	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説 試験問題の答え合わせを行うことができる				試験解説	
成績評価方法								
成績判定試験：第14回の授業内で実施（50分） 選択問題、空白記入問題 授業態度：減点方式（居眠り・授業中の私語・指示以外のスマホに触れる等への指導後、改善されない場合は2点減点） モデル犬使用の授業では教員の指示に従い行動できているか 出席：0回欠席（10点）、1回欠席（5点）、2回欠席（3点）、3回欠席（1点）とする 以上の総合得点が60点以上及び出席率80％であることを合格基準とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験			2位		1位	1位	70	秀（S）：100点～90点
②確認テスト							なし	優（A）：89点～80点
③課題レポート							なし	良（B）：79点～70点
④授業態度				2位	1位		20	可（D）：69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）：59点以下
⑥出席				1位			10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施
シラバス作成者	井田亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	小泉 秀明			
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

科目名	グルーミングⅠ			学科名 (コース名)	ペット総合科		学年	1学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	民間検定	
教育課程区分	必修	単位数	6	時間数	180	該当資格名称	全国動物専門学校協会 サロントリマー検定 3級	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	1 基本的なグルーミング(犬の全身のお手入れ全般を指す)方法を覚え、技術を身に付ける。今後コース選択をするために必要な必須科目。 トリマーコースは、後期の美容Ⅰ実習授業へ確実なグルーミングが行えるようになる。 ドッグトリナー&ペットアドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサロントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。 【注意事項】グルーミングⅠは、生体の犬種や健康状態等によって、コマシラバスの内容が前後変更を生じる場合があります							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	1 基本グルーミング・ベーシッククリッピング(犬が日常生活を衛生的に保つために必要な部分カット)に関する技術を修得し、目標時間(2時間30分)内に仕上げる。 犬の基本的なグルーミング技術(ブラッシング、シャンプー、ドライ、爪切り、耳掃除など)を正しく理解し、安全に実施できるようになる。							
受講条件	1 ペット総合科在籍							
教科書名	1 最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑				教材名	1 PowerPoint		
設備名・機器名	1 PC スクリーン プロジェクター 実習用具				関連サイト	1 該当なし		
関連前科目	1 該当なし				関連後科目	1 グルーミングⅡ 美容Ⅰ		
授業計画(授業コマ単位) 学科: 15コマ以上目標単位、実習・演習: 30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1～3回	○月○日	授業開始について オリエンテーション 美容用具の配布・確認		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 自己紹介(氏名・志望選択コース・飼養動物種のリサーチ) 美容用具の配布と種類の確認				PowerPoint
第4～6回	○月○日	美容実習授業時の安全管理 (注意点) 実習室取扱説明		実習時の服装・態度・準備物・注意事項 美容実習における安全管理の重要性を理解し、実習室でのルール・マナーを遵守して行動できる				PowerPoint
第7～9回	○月○日	美容実習の1日の流れ 実習当番の仕事		実習授業時の1日の流れ 実習当番の仕事 1日の美容実習の流れ(準備・実施・片付け・記録)を理解し、時間を意識した行動ができる				PowerPoint
第10～12回	○月○日	情報管理(お客様への手紙・カルテについて) ファッショングッズ作成(リボン)		お客様へのお手紙モデル犬カルテの記入ルールを理解し、正確かつ丁寧に情報を記録できる。 犬用リボンを正しく作成し、美的感覚を養う。				PowerPoint
第13～15回	○月○日	愛玩動物の基本ケア (グルーミング実習観察)		教員によるモデルグルーミング 教員によるモデル犬のグルーミングを観察し、犬種ごとの特徴や扱い方を理解する				モデル犬
第16～18回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる グルーミングの流れ・基本的な手順・点検項目を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第19～21回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる グルーミングの流れ・基本的な手順・点検項目を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第22～24回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ブラッシング・耳掃除・爪切りの基本手順を覚え、正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第25～27回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ブラッシング・耳掃除・爪切りの基本手順を覚え、正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第28～30回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる ブラッシング確認テスト		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ブラッシング・耳掃除・爪切りの基本手順を覚え、正確に作業することができる ブラッシングが正しい手順で行えるか、ブラッシングの基本を理解できる				実習用具 モデル犬
第31～33回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ペイジング(入浴)の基本手順を覚え、正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第34～36回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ペイジング(入浴)の基本手順を覚え、正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第37～39回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ペイジング(入浴)の基本手順を覚え、正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第40～42回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ペイジング(入浴)の基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第43～45回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる クリッピングの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第46～48回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる クリッピングの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第49～51回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる クリッピングの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第52～54回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ヒゲカット・足先カットの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第55～57回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ヒゲカット・足先カットの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第58～60回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ヒゲカット・足先カットの基本手順を覚え、正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第61～63回	○月○日	グルーミング実習(確認テスト) 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる グルーミングを正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第64～66回	○月○日	グルーミング実習 学生2名1頭仕上げる 中型犬 大型犬を仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる グルーミングを正確に作業することができる 中型犬・大型犬の扱い方を学び、安全に作業することができる				実習用具 モデル犬
第67～69回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる				実習用具 モデル犬
第70～72回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる				実習用具 モデル犬
第73～75回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる				実習用具 モデル犬
第76～78回	○月○日	グルーミング実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		小型犬を学生2名で1頭仕上げる 小型犬を学生1名で1頭仕上げる				実習用具 モデル犬
第79～81回	○月○日	グルーミング実習 実技試験 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		実技試験(小型犬を学生2名で1頭仕上げる) 小型犬を学生1名で1頭仕上げる 実技試験を通じて、習得した技術が適切に適用されているかを評価する				実習用具 成績判定試験 モデル犬

第82～84回	○月○日	グルーミング実習 実技試験 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	実技試験(小型犬を学生2名で1頭仕上げる) 小型犬を学生1名で1頭仕上げることができる 実技試験を通じて、習得した技術が適切に適用されているかを評価する	実習用具 成績判定試験 モデル犬
第85～87回	○月○日	グルーミング実習 実技試験 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	実技試験(小型犬を学生2名で1頭仕上げる) 小型犬を学生1名で1頭仕上げることができる 実技試験を通じて、習得した技術が適切に適用されているかを評価する	実習用具 成績判定試験 モデル犬
第88～90回	○月○日	グルーミング実習 実技試験 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	実技試験(小型犬を学生2名で1頭仕上げる) 小型犬を学生1名で1頭仕上げることができる 実技試験を通じて、習得した技術が適切に適用されているかを評価する	実習用具 モデル犬

成績評価方法

成績判定試験：実技試験 ベーシックを行う（学生2名で1頭仕上げる）
課題レポート：モデルグルーミング後レポートを提出（期限内に提出されたか、テーマに沿った内容構成ができているか）、犬用リボン提出（期限内に提出されたか、リボン作成に不備がないか）
授業態度：教員の指示に従った行動ができている、実習当番を忘れずにやっている、率先して掃除を行っている
出席：欠席日数により減点となる

↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		2位		1位	1位	50	秀（S）：100点～90点
②確認テスト						なし	優（A）： 89点～80点
③課題レポート	1位		2位			20	良（B）： 79点～70点
④授業態度			2位	1位		30	可（D）： 69点～60点
⑤作品						なし	不可（E）：59点以下
⑥出席			2位	1位		10	
							再試験 1回まで実施

不合格の場合

シラバス作成者	井田 亜由美＋トリマー指導 教員	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	井田 亜由美＋トリマー指導教員
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/

更新履歴					
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)	
改1					
改2					
改3					
改4					
改5					

科目名	美容Ⅰ			学科 (コース)	ペット総合科 (トリマーコース)		学年	1学年
授業形態	実習	学期	後期	開講年月	10月	該当資格区分	民間検定	
教育課程区分	選択必修	単位数	6	時間数	180	該当資格名称	全国動物専門学校協会サロントリマー検定1級 JKCトリマーC級ライセンス	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	1 各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カッティング(カット技術・整毛技術)方法を覚え、技術方法を身に付ける。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる 【注意事項】美容Ⅰは、生体の犬種や健康状態等によって、コマシラバスの内容が前後変更を生じる場合があります							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	1 各犬種の基本グルーミング・ベーシック・クリッピング・カッティング技術を修得し、目標時間内に仕上げる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の取得へ繋げる。 カッティングシザーの正しい持ち方・動かし方を覚えることができる							
受講条件	1 ペット総合科 トリマーコース在籍							
教科書名	1 最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑				教材名	1 PowerPoint 配布プリント		
設備名・機器名	1 PC スクリーン プロジェクター 実習用具				関連サイト	1 該当なし		
関連前科目	1 グルーミングⅠ				関連後科目	1 美容Ⅱ		
授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1～3回	○月○日	授業開始について 実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 マルチー ズ シーズー(サマーカット)、プードル学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第4～6回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第7～9回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第10～12回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第13～15回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第16～18回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第19～21回	○月○日	レッスンドッグ シーズー ブラッシング		レッスンドッグ シーズーのブラッシング レッスンドッグを使用して、丁寧なブラッシングをすることができる				実習用具 シーズー配布プリント レッスンドッグ
第22～24回	○月○日	レッスンドッグ シーズー サマーカット		レッスンドッグ シーズーサマーカット レッスンドッグを使用して、基本的なサマーカットの形を覚えることができる				実習用具 シーズー配布プリント レッスンドッグ
第25～27回	○月○日	レッスンドッグ シーズー サマーカット		レッスンドッグ シーズーサマーカット レッスンドッグを使用して、基本的なサマーカットの形を覚えることができる				実習用具 シーズー配布プリント レッスンドッグ
第28～30回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第31～33回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第34～36回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第37～39回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット)		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる シザーの持ち方・動かし方の基本を覚えることができる				実習用具 モデル犬
第40～42回	○月○日	紙粘土作成 骨組み作成 (マルチー ズ サマーカット)		紙粘土制作 骨組み作成(マルチー ズ サマーカット) マルチー ズの骨格を覚え、紙粘土を使用してマルチー ズを作ることができる				割り箸・針金・タコ糸 紙粘土・マルチー ズ配布プリント
第43～45回	○月○日	紙粘土作成 (マルチー ズ サマーカット)		紙粘土制作 (マルチー ズ サマーカット) マルチー ズの骨格を覚え、紙粘土を使用してマルチー ズを作ることができる				割り箸・針金・タコ糸 紙粘土・マルチー ズ配布プリント
第46～48回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 中型犬 大型犬を仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 中型犬・大型犬の扱い方を覚え、ベーシックを正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第49～51回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 中型犬 大型犬を仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で2頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 中型犬・大型犬の扱い方を覚え、ベーシックを正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第52～54回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 中型犬 大型犬を仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で3頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 中型犬・大型犬の扱い方を覚え、ベーシックを正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第55～57回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 中型犬 大型犬を仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で4頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 中型犬・大型犬の扱い方を覚え、ベーシックを正確に作業することができる				実習用具 モデル犬
第58～60回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる ベーシックを正確に作業し、学生1名で1頭仕上げる				実習用具 モデル犬
第61～63回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる ベーシックを正確に作業し、学生1名で1頭仕上げる				実習用具 モデル犬
第64～66回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる ベーシックを正確に作業し、学生1名で1頭仕上げる				実習用具 モデル犬
第67～69回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる ベーシックを正確に作業し、学生1名で1頭仕上げる				実習用具 モデル犬
第70～72回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 単位認定試験を意識し、モデル犬の扱い、ハサミの扱いを正しく使用することができる				実習用具 モデル犬
第73～75回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 単位認定試験を意識し、モデル犬の扱い、ハサミの扱いを正しく使用することができる				実習用具 モデル犬
第76～78回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる		マルチー ズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げ 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 単位認定試験を意識し、モデル犬の扱い、ハサミの扱いを正しく使用することができる				実習用具 モデル犬

第79～81回	○月○日	実習 学生2名で1頭仕上げる (長毛種 カット) 学生1名で1頭仕上げる	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、プードル種 学生2名で1頭仕上げる 犬種ごとのサマーカットの形を覚えることができる 単位認定試験を意識し、モデル犬の扱い、ハサミの扱いを正しく使用することができる	実習用具 モデル犬			
第82～84回	○月○日	実技試験 レッスンドッグ (シーズーカット)	実技試験(レッスンドッグを使用して全身カットを行う) シーズーのサマーカットの形を理解し、カットすることができる	実習用具 レッスンドッグ 成績判定試験			
第85～87回	○月○日	実技試験 レッスンドッグ (シーズーカット)	実技試験(レッスンドッグを使用して全身カットを行う) シーズーのサマーカットの形を理解し、カットすることができる	実習用具 レッスンドッグ 成績判定試験			
第88～90回	○月○日	実技試験 レッスンドッグ (シーズーカット)	実技試験(レッスンドッグを使用して全身カットを行う) シーズーのサマーカットの形を理解し、カットすることができる	実習用具 レッスンドッグ 成績判定試験			
成績評価方法							
成績判定試験：実技試験 レッスンドッグを使用して全身カットを行う (モデル犬の扱い・ハサミの持ち方・動かし方・コームの持ち方・動かし方) 授業態度：教員の指示に従った行動ができて、実習当番を忘れずにやっている、率先して実習室の掃除を行っている、 出席：欠席日数により減点となる							
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	2位	2位	2位	1位	1位	60	秀 (S)：100点～90点
②確認テスト						なし	優 (A)： 89点～80点
③課題レポート						なし	良 (B)： 79点～70点
④授業態度	2位	2位	2位	1位	1位	30	可 (D)： 69点～60点
⑤作品						なし	不可 (E)：59点以下
⑥出席			1位			10	
						不合格の場合	再試験 1回まで実施

シラバス作成者	井田亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	井田亜由美 + トリマー指導教員
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				
改3				
改4				
改5				

科目名	美容Ⅱ			学科 (コース)	ペット総合科 (トリマーコース)		学年	2学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	民間検定	
教育課程区分	選択必修	単位数	9	時間数	270	該当資格名称	全国動物専門学校協会サロントリマー検定1級 JKCトリマーC級ライセンス	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	1 各現場で通用するトリミング技術方法を知る。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない。 時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。 【注意事項】美容Ⅱは、生体の犬種や健康状態等によって、コマシラバスの内容が前後変更を生じる場合があります							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	1 各犬種の基本グルーミング・ベーシック・クリッピング・カッティング技術を修得し、目標時間内に仕上げる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の取得へ繋げる。 カッティングシザーの正しい持ち方・動かし方を知ることができる							
受講条件	1 ペット総合科 トリマーコース在籍 美容Ⅰの単位取得した者							
教科書名	1 最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑				教材名	1 PowerPoint 配布プリント		
設備名・機器名	1 PC スクリーン プロジェクター 実習用具				関連サイト	1 該当なし		
関連前科目	1 美容Ⅰ				関連後科目	1 美容Ⅲ		
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1～3回	○月○日	授業開始について カット実習 学生2名で1頭仕上げる		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 マルチーズ シーズー (サマーカット) ブードル学生2名で1頭仕上げ ブードル種の足先(趾先)・尾軸の刈り方を知る ブードルの各部クリッピング位置を正確に覚えることができる				実習用具 モデル犬
第4～6回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット) ブードル学生2名で1頭仕上げ ブードル種の足先(趾先)・尾軸の刈り方を知る ブードルの各部クリッピング位置を正確に覚えることができる				実習用具 モデル犬
第7～9回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット) ブードル学生2名で1頭仕上げ ブードル種の顔の刈り方を知る ブードルの各部クリッピング位置を正確に覚えることができる				実習用具 モデル犬
第10～12回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット) ブードル学生2名で1頭仕上げ ブードル種の顔の刈り方を知る ブードルの各部クリッピング位置を正確に覚えることができる				実習用具 モデル犬
第13～15回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(オールシザー) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第16～18回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(オールシザー) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第19～21回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で2頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(オールシザー) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第22～24回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(オールシザー) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第25～27回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(オールシザー) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第28～30回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(体のバリカンの当て方) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第31～33回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(体のバリカンの当て方) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第34～36回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(体のバリカンの当て方) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第37～39回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(体のバリカンの当て方) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第40～42回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー(サマーカット)ブードル学生2名で1頭仕上げ デビヘアカットの体・顔のトリミングを知る(体のバリカンの当て方) デビヘアカットの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第43～45回	○月○日	ケネル&ラムクリップ (実習観察)		教員によるモデルグルーミング 教員によるケネル&ラムクリップのカットを観察し、形やカット方法を学ぶ				ブードル配布プリント
第46～48回	○月○日	レッスンドッグ ブードル ケネル&ラムクリップ		レッスンドッグ ブードル ケネル&ラムクリップ レッスンドッグを使用して、基本的なケネル&ラムクリップの形を知ることができる				実習用具 ブードル配布プリント レッスンドッグ
第49～51回	○月○日	レッスンドッグ ブードル ケネル&ラムクリップ		レッスンドッグ ブードル ケネル&ラムクリップ レッスンドッグを使用して、基本的なケネル&ラムクリップの形を知ることができる				実習用具 ブードル配布プリント レッスンドッグ
第52～54回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第55～57回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第58～60回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第61～63回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第64～66回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第67～69回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第70～72回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第73～75回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬
第76～78回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる		マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げ 学生1名で1頭仕上げ ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる				実習用具 モデル犬

第79～81回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる	実習用具 モデル犬
第82～84回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる	実習用具 モデル犬
第85～87回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる	実習用具 モデル犬
第88～90回	○月○日	カット実習 学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる	マルチーズ シーズー (サマーカット)、ブードル学生2名で1頭仕上げる 学生1名で1頭仕上げる ブードル ケネル&ラムクリップの全体カットを理解する ケネル&ラムクリップの基本的なカット方法を理解し、適切にカットすることができる	実習用具 モデル犬

成績評価方法							2
成績判定試験：実技試験 レッスンドッグを使用して全身カットを行う (モデル犬の扱い・ハサミの持ち方・動かし方・コームの持ち方・動かし方) 授業態度：教員の指示に従った行動ができている、実習当番を忘れずに行っている、率先して実習室の掃除を行っている、 出席点：欠席日数により減点となる							
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験	2位	2位	2位	1位	1位	60	秀 (S) : 100点～90点
②確認テスト						なし	優 (A) : 89点～80点
③課題レポート						なし	良 (B) : 79点～70点
④授業態度	2位	2位	2位	1位	1位	30	可 (D) : 69点～60点
⑤作品						なし	不可 (E) : 59点以下
⑥出席			1位			10	
						不合格の場合	再試験1回まで実施

シラバス作成者	井田亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	井田亜由美 + トリマー指導教員
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/

更新履歴					
シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Checker (確認者)	
改1					
改2					
改3					
改4					
改5					

科目名	訓練Ⅰ			学科 (コース)	ペット総合科 (ドッグトレーナーコース)		学年	2学年
授業形態	実習	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	民間検定	
教育課程区分	選択必修	単位数	2	時間数	60	該当資格名称	SAE公認家庭犬訓練士	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う。 社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢献ができる。						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		ドッグ・スポーツを通じて犬との適切なコミュニケーション方法を身につけ、信頼関係を築くことができる 犬と関わる活動を通して、社会で必要とされる責任感・主体性・協調性を身につけることができる						
受講条件		ペット総合科ドッグトレーナーコースに在籍						
教科書名				該当なし		教材名		該当なし
設備名・機器名				DVDデッキ・テレビ・白板		関連サイト		該当なし
関連前科目				家庭犬訓練Ⅱ		関連後科目		訓練Ⅱ
授業計画（授業コマ単位）学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1-2回	○月○日	授業開始について、注意事項の確認、ドッグスポーツの概要		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について ドッグ・スポーツの種類、訓練競技会、フライボールについて 授業の目的と概要を説明できる				モデル犬
第3-4回	○月○日	安全管理とドッグダンス入門		ドッグ・スポーツを安全に楽しむために 基礎的なドッグダンス導入 安全管理項目を3つ以上挙げ、実施できる				モデル犬
第5-6回	○月○日	トレーニング準備		準備の理論と実践 トレーニング前に行うべき準備を5つ以上説明できる				モデル犬
第7-8回	○月○日	集中力向上と練習方法		犬の集中を引き出す方法 集中を高める手法を3つ以上実践できる				モデル犬
第9-10回	○月○日	進行とアフターケア		トレーニングの進め方、アフター・ケア 訓練後のケア方法を2つ以上実行できる				モデル犬
第11-12回	○月○日	ディスク導入		ディスク・ドッグの基本 ディスクを使った動作を2パターン実演できる				モデル犬
第13-14回	○月○日	脳と行動学の基礎		犬の脳構造と行動特性 行動と脳の関連を図示または口頭で説明できる				モデル犬
第15-16回	○月○日	行動と脳の関連を図示または口頭で説明できる		記憶の種類と応用方法 短期・長期記憶の違いを具体例と共に説明できる				モデル犬
第17-18回	○月○日	強化理論		強化・弱化的理論 4種類の強化・弱化的を正確に分類できる				モデル犬
第19-20回	○月○日	条件付けと脱感作		行動修正技術（拮抗条件付け、系統的脱感作）について 2種類の条件付けを比較して説明できる				モデル犬
第21-22回	○月○日	音刺激と反応		犬の音に対する反応について 音刺激に対する反応を3パターン以上説明できる				モデル犬
第23-24回	○月○日	映像学習（前編）		DVDによる実技確認・DVD観賞（前編） 映像内の動作を5つ以上正確に説明できる				DVDデッキ・テレビ
第25-26回	○月○日	映像学習（後編）		DVD内容の動作分析・DVD観賞（後編） 改善点を2つ以上言語化できる				DVDデッキ・テレビ
第27-28回	○月○日	小テストと実技試験		筆記・ドッグダンスの実演 筆記で80%以上、実技で70%以上の再現度で実施できる				モデル犬
第29-30回	○月○日	振り返りとクリッカー		テストの解説とクリッカー技術の紹介 クリッカーの使用手順を3段階に分けて説明できる				モデル犬
成績評価方法								
成績判定試験：第14回の授業内で実施（50分） 筆記試験とドッグダンス実演 確認テスト：授業内で実施 授業態度：減点方式（居眠り・授業中の無関係内容の私語・指示以外のスマホ使用等への指導後、改善されない場合は毎回2点を減点） 出席：0回欠席（10点）、1回欠席（5点）、2回欠席（3点）、3回欠席（1点）とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験			2位		1位	1位	60	秀（S）：100点～90点
②確認テスト			2位		1位	1位	20	優（A）：89点～80点
③課題レポート							なし	良（B）：79点～70点
④授業態度		2位	2位	2位	1位	1位	10	可（D）：69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）：59点以下
⑥出席				1位			10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施
シラバス作成者	小笠原 季輝	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	小泉 秀明			
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所		作成者		Check者(確認者)	

科目名	家庭犬訓練Ⅱ			学科 (コース)	ペット総合科 (ドッグトレーナーコース)		学年	1学年
授業形態	講義		学期	後期	開講年月	10月	該当資格区分	該当なし
教育課程区分	選択必修		単位数	2	時間数	60	該当資格名称	該当なし
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		2年次からの専門的なコース授業開始に向けて、犬種を熟知し自分に相応するパートナーモデル犬種を見極める。 訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える 1頭以上のモデル犬に訓練を入れ、JKC競技会に出場する。 犬を飼養する意義を考え、自分に合ったパートナーモデル犬を決定し、トレーナーとの絆を深かめながら基本的なコントロール方法を覚え身に付ける。						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		2年次からの授業をスムーズに移行できるパートナーを選び、必要な訓練の実践ができる。 JKC訓練競技会出場と、CD1Sクラスの訓練犬試験に合格する。 犬を飼養する人へ適切なアドバイスができる。						
受講条件		1 ペット総合科ドッグトレーナーコース在籍 家庭犬訓練Ⅰ単位取得した者						
教科書名		1 該当なし			教材名		1 該当なし	
設備名・機器名		1 ホワイトボード パートナー犬			関連サイト		1 該当なし	
関連前科目		1 家庭犬訓練Ⅰ			関連後科目		1 訓練Ⅰ	
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)		各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材
第1～2回	○月○日	授業開始について リードの扱い方（1）		授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、成績について リードの使い方、テンションのかけ方練習 リードの基本的な構造と種類を理解し、目的に応じて適切に使い分けができる				モデル犬
第3～4回	○月○日	なぜ犬を飼うのか（1） リードの扱い方（2）		犬を飼うための準備（自分自身を振り返る①） リードワーク（張り方・緩め方） リードを使った犬とのコミュニケーションの基本を実践し、安全かつ穏やかに犬を誘導で				モデル犬
第5～6回	○月○日	なぜ犬を飼うのか（2） 呼び出し（1）		本当に犬を飼えるのか（自分自身を振り返る②） 呼び戻し（リード使用） 呼び戻しの際の声のトーン・タイミング・褒め方など、犬に伝わりやすいコミュニケー				モデル犬
第7～8回	○月○日	なぜ犬を飼うのか（3） 呼び出し（2）		犬を飼うための準備（犬を見極める）① 呼び戻し（ハンド・タッチ、リード無し） 犬との基本的なコミュニケーション技術（呼び戻し）を理解し、実践することができる				モデル犬
第9～10回	○月○日	なぜ犬を飼うのか（4） 呼び出し（3）		犬を飼うための準備（犬を見極める）② 呼び戻し（難易度を上げる） 呼び戻しのトレーニングを応用レベルに引き上げ、様々な状況下でも確実に犬が反応でき				モデル犬
第11～12回	○月○日	成犬を家に迎え入れる キューについて（1）		成犬を家に迎え入れる準備 声・視・体符の使い方 犬とのコミュニケーションに必要な声掛け・視線・身体サイン（体符）を適切に使いこ				モデル犬
第13～14回	○月○日	子犬を飼う前に（1） キューについて（2）		子犬選びと飼う時期について Yes・Noの使い方 犬にわかりやすく伝えるための「Yes」「No」の使い方を理解し、しつけにおいて正しく				モデル犬
第15～16回	○月○日	子犬を飼う前に（2） 校外学習 マテ（1）		子犬の入手先について 運動 マテの強化① 成長段階ごとに必要な運動量と内容（散歩・遊び・頭を使う運動）を理解し説明すること				モデル犬
第17～18回	○月○日	子犬を飼う前に（3） マテ（2）		子犬の発達診断 マテの強化② 子犬の身体的・行動的な発達段階を正しく理解し、成長に応じた接し方やしつけができ				モデル犬
第19～20回	○月○日	子犬を飼う前に（4） クリッカー・トレーニング（1）		家庭犬の気質テストについて クリッカー・トレーニング（コンディショニング） クリッカーの音と褒美を結びつけることで、犬が音を「良いことの合図」と認識する仕				モデル犬
第21～22回	○月○日	子犬の学習の期限（1） クリッカー・トレーニング（2）		子犬を家に迎え入れる クリッカー・トレーニング（自発行動を引き出す） 子犬が自分で考えて動く力を育てるために、クリッカーを使って自発的な行動を引き出				モデル犬
第23～24回	○月○日	子犬の学習の期限（2） クリッカー・トレーニング（3）		人への社会化 クリッカー・トレーニング（ターゲット） 子犬期に人と良い関係を築く経験が、将来の問題行動予防につながることを説明できる				モデル犬
第25～26回	○月○日	バビーステスト		バビーステストを実際に行う 子犬の気質や行動傾向を客観的に評価するために、バビーステストを正しい手順で実施し、				モデル犬
第27～28回	○月○日	成績判定試験 訓練競技会について（1）		成績判定試験実施 訓練競技会出場における心構え				成績判定試験 モデル犬
第29～30回	○月○日	授業を終えて 訓練競技会について（2）		小テストの振り返り 訓練競技会における指導者と犬の関係				
成績評価方法								
成績判定試験：第14回の授業内で実施（50分） 選択問題、空白記入問題 授業態度：減点方式（居眠り・授業中の私語・指示以外のスマホに触れる等への指導後、改善されない場合は2点減点） モデル犬使用の授業では教員の指示に従い行動できているか 出席点：0回欠席（10点）、1回欠席（5点）、2回欠席（3点）、3回欠席（1点）とする 以上の総合得点が60点以上及び出席率80％であることを合格基準とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分％	成績評価基準
①成績判定試験			2位		1位	1位	70	秀（S）：100点～90点
②確認テスト							なし	優（A）： 89点～80点
③課題レポート							なし	良（B）： 79点～70点
④授業態度				2位	1位	1位	20	可（D）： 69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）：59点以下
⑥出席点				2位	1位		10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施
シラバス作成者	小泉 秀明	シラバス承認者	井田亜由美		授業担当教員	小泉 秀明		
					実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/		
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由		更新箇所		作成者		Check者（確認者）
改1								

科目名	グルーミングⅢ			学科名 (コース名)	ペット総合科 (ドッグトレーナーコース) (ペットアドバイザーコース)		学年	2学年
授業形態	実習		学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分	民間検定
教育課程区分	選択必修		単位数	3	時間数	90	該当資格名称	全国動物専門学校協会 サロントリマー検定3級
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	1 各現場で通用するグルーミング技術を覚える。 新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生で学んだ技術を後退させない。 時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。 サロントリマー検定3級取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	1 指定時間(2時間)内に、モデル犬1頭を一人で仕上げるようになる。 必要に応じて、1日1人2頭のベーシックモデル犬を仕上げる。 大型犬の扱い方を覚え、2人で時間内に仕上げるができる							
受講条件	1 ペット総合科ドッグトレーナーコースまたはペットアドバイザーコースに在籍 グルーミングⅡの単位を取得した者							
教科書名	1 最新ドッググルーミングマニュアル、プロが教えるベスト・トリミング (トリマーの基礎知識)、最新犬種図鑑				教材名	1 PowerPoint		
設備名・機器名	1 実習用具				関連サイト	1 該当なし		
関連前科目	1 グルーミングⅡ				関連後科目	1 グルーミングⅣ		

授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位

回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標	使用教科書・教材
第1～3回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第4～6回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第7～9回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第10～12回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第13～15回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第16～18回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第19～21回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第22～24回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第25～27回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第28～30回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第31～33回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第34～36回	○月○日	グルーミング実習 学生1名2時間で仕上げる 学生1名2頭仕上げる	小型犬を学生1名で1頭2時間で仕上げる 学生1名で2頭仕上げる ベーシックを正確に作業し、一人でモデル犬を作業することができる 時間内に一人でモデル犬2頭を作業することができる	実習用具 モデル犬
第37～39回	○月○日	実技試験 2時間で1頭仕上げる	成績判定試験 小型犬を一人で1頭仕上げる (2時間)	成績判定試験
第40～42回	○月○日	実技試験 2時間で1頭仕上げる	成績判定試験 小型犬を一人で1頭仕上げる (2時間)	成績判定試験
第43～45回	○月○日	実技試験 振り返り 2時間で1頭仕上げる	成績判定試験 振り返り 小型犬を一人で1頭仕上げる (2時間)	振り返り

成績評価方法							
成績判定試験:実技試験 小型犬のベーシックを行う(学生1名で1頭仕上げる) 授業態度:教員の指示に従った行動ができている、実習当番を忘れずに行っている、率先して実習室の掃除を行っている、 出席:欠席日数により減点となる							
↓判定方法\該当する観点→	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		2位		1位	1位	60	秀(S):100点～90点
②確認テスト						なし	優(A):89点～80点
③課題レポート						なし	良(B):79点～70点
④授業態度			2位	1位		30	可(D):69点～60点
⑤作品						なし	不可(E):59点以下
⑥出席			1位			10	
						不合格の場合	再試験1回まで実施

シラバス作成者	井田 亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Check者(確認者)
改1				
改2				

科目名	水生生物Ⅱ			学科 (コース)	ペット総合科 (ペットアドバイザーコース)		学年	1学年
授業形態	講義	学期	後期	開講年月	10月	該当資格区分	該当なし	
教育課程区分	選択必修	単位数	2	時間数	60	該当資格名称	該当なし	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。							
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)	2年次に1人に1つの水槽（基本60cm水槽）を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げるための、水草の定着方法を学び、流木・アクセサリーを使用してのアレンジができるようになる。							
受講条件	ペットアドバイザーコース在籍 水生生物Ⅰの単位を取得した者							
教科書名	該当なし				教材名	配布プリント		
設備名・機器名	ホワイトボード				関連サイト	アクアジャーナル https://www.adana.co.jp/jp/aquajournal/		
関連前科目	水生生物Ⅰ				関連後科目	水生生物Ⅲ		
授業計画（授業コマ単位） 学科：15コマ以上目単位、実習・演習：30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1-2回	○月○日	授業開始について アクアリウムの基本	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 授業の必要性や目的を説明できる				-	
第3-4回	○月○日	レイアウトの構成を考える アクアリウムとアクアテラリウム	レイアウトの構成 レイアウトの基本構成要素を理解しレイアウトの基本的説明ができる アクアリウムとアクアテラリウムの違いを理解し、それぞれの特性に基づいた設置方法や飼育方法を				-	
第5-6回	○月○日	水草について	水草の種類 水草の基本的な種類を理解し、水草の特徴を説明できる				-	
第7-8回	○月○日	熱帯魚の性質・種類 水槽レイアウト	熱帯魚の種類 熱帯魚の性質を理解し、種類を5つ挙げることができる				-	
第9-10回	○月○日	熱帯魚の性質・種類 水槽レイアウト	熱帯魚の種類 熱帯魚の性質を理解し、種類を5つ挙げることができる				-	
第11-12回	○月○日	混泳ができる魚類について	異種魚の共存について 異種魚共存の基本的な概念を理解し共存方法の説明ができる				-	
第13-14回	○月○日	ろ過器について 実践（実習）	フィルター・装置の説明 ろ過器の種類・構造・方式 ろ過器についての役割、構造、種類を説明できる				-	
第15-16回	○月○日	水草について	代表的な水草について 代表的な水草(浮水草、沈水草、浮草など)の特徴と役割を説明できる				-	
第17-18回	○月○日	水草について 水槽メンテナンス	水槽メンテナンス 水槽メンテナンスの基本や方法の説明ができる				-	
第19-20回	○月○日	熱帯魚の性質・種類	熱帯魚の種類 熱帯魚の性質を理解し、種類を5つ挙げることができる				-	
第21-22回	○月○日	実践（実習）	水槽のレイアウトを構想する 水槽のレイアウトを実践することができる				-	
第23-24回	○月○日	給餌について 水槽管理について	CB個体とWC個体について 水槽管理の応用 水槽メンテナンス 水槽の長期安定管理に必要な応用的知識を理解し説明することができる				-	
第25-26回	○月○日	1年生に学んだことのまとめ	1年間のまとめ				試験範囲説明	
第27-28回	○月○日	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験 成績判定試験を受験することができる				成績判定試験	
第29-30回	○月○日	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説 試験問題の答え合わせを行うことができる				試験解説	
成績評価方法								
成績判定試験：第14回の授業内で実施（50分） 50選択問題、空白記入問題） 課題レポートを提出：課題内容が記載されているか、期日までに提出しているか 授業態度：減点方式（居眠り・授業中の私語・指示以外のスマホに触れる等への指導後、改善されない場合は2点減点） 出席：0回欠席（10点）、1回欠席（5点）、2回欠席（3点）、3回欠席（1点）とする 以上の総合得点が60点以上及び出席率80％であることを合格基準とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	評価基準
①成績判定試験		1位	2位				70	秀（S）：100点～90点
②確認テスト		2位	2位	1位			10	優（A）： 89点～80点
③課題レポート							なし	良（B）： 79点～70点
④授業態度				2位	1位		10	可（D）： 69点～60点
⑤作品							なし	不可（E）：59点以下
⑥出席				2位	1位		10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施
シラバス作成者	井田 亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	細川 敏史			
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			
更新履歴								
シラバス更新履歴		更新理由	更新箇所		作成者 Check者(確認者)			
改1								
改2								

科目名 ¹	水生生物Ⅲ			学科 (コース)	ペット総合科 (ペットアドバイザーコース)		学年	2学年
授業形態 ⁴	講義	学期	前期	開講年月	4月	該当資格区分 ⁵	該当なし	
教育課程区分	選択必修	単位数	2	時間数	60	該当資格名称 ¹	該当なし	
科目の概要 (全コマ数を俯瞰して)		アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。						
科目の到達目標 (教育課程の位置づけ)		1人に1つの水槽(基本60cm水槽)を管理し、レイアウト全ての作品を作り上げる。 水草の定着から、流木・アクセサリを使用してのアレンジができる。						
受講条件		ペットアドバイザーコース在籍 水生生物Ⅱの単位を取得した者						
教科書名		該当なし			教材名	配布プリント		
設備名・機器名		ホワイトボード			関連サイト	アクアジャーナル https://www.adana.co.jp/jp/aquajournal/		
関連前科目		水生生物Ⅱ			関連後科目	該当なし		
授業計画(授業コマ単位) 学科:15コマ以上目単位、実習・演習:30コマ以上/単位								
回(コマ)	開講日	授業コマの主題(タイトル)	各時間ごとの授業内容および授業コマの到達目標				使用教科書・教材	
第1-2回	○月○日	授業開始について アクアリウムの応用	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明 実習の進め方、前年水槽の清掃 水槽の種類、ガラス水槽とアクリル水槽 短所と長所 水槽管理に関する基礎知識を理解することができる				一	
第3-4回	○月○日	レイアウトの全体構成・配置	アクアリウムとアクアテラリウム、レイアウト アクアリウムとアクアテラリウムの違いを理解し、特徴を説明できる				一	
第5-6回	○月○日	水草の取り扱い	取り扱う水草の種類、前景・中景・後景、アクアセラピーについて 前景・中景・後景の水草の配置の意味と代表種を理解・説明できる				一	
第7-8回	○月○日	熱帯魚の選択 混泳を考える	熱帯魚の組み合わせ 熱帯魚の種類と性格、水質の違いを理解し、適切な組み合わせを説明できる				一	
第9-10回	○月○日	水槽の組み立て①	水槽を組み立てる 水槽に必要な機材や道具の名称と役割を理解し組み立てることができる				一	
第11-12回	○月○日	水槽の組み立て②	水槽を組み立てる 水槽に必要な機材や道具の名称と役割を理解し組み立てることができる				一	
第13-14回	○月○日	フィルター・装置の設置	フィルター・装置の設置 適切な手順でフィルターや装置を安全に設置できる				一	
第15-16回	○月○日	買い付け	各水槽のレイアウトを考え自分達のイメージにあった熱帯魚と水草を購入する 予算・飼育環境を踏まえて熱帯魚・水草を適切に選び、購入計画を立てられる				一	
第17-18回	○月○日	光合成と二酸化炭素	光合成と二酸化炭素、発酵式二酸化炭素について、水草のレイアウト 水草の光合成に必要な要素(光・CO ₂ ・水・栄養)を理解し、説明することができる				一	
第19-20回	○月○日	水草の植え付け	ウィローモスの活着 ウィローモスの特徴や生育条件を理解し、説明することができる				一	
第21-22回	○月○日	全体での水槽のレイアウト	全体での水槽のレイアウト 水槽の全体レイアウトを計画し、実際の配置をバランス良く調整することができる				一	
第23-24回	○月○日	全体での水槽のレイアウト	水槽の全体のイメージから、より近づける為にトリミングを行う トリミングの目的と効果(美観維持・成長促進・水質管理など)を理解することができる				一	
第25-26回	○月○日	水槽メンテナンス 食用魚について	水槽のメンテナンス 食用魚について 水槽の基本的なメンテナンス項目(掃除、水換え、フィルター清掃など)を理解し、行うことができる				一	
第27-28回	○月○日	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験 成績判定試験を受験することができる				成績判定試験	
第29-30回	○月○日	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説 試験問題の答え合わせを行うことができる				試験解説	
成績評価方法								
成績判定試験:第14回の授業内で実施(50分) 選択問題、空白記入問題) 課題レポートを提出:課題内容が記載されているか、期日までに提出しているか 授業態度:減点方式(居眠り・授業中の私語・指示以外のスマホに触れる等への指導後、改善されない場合は2点減点) 出席:0回欠席(10点)、1回欠席(5点)、2回欠席(3点)、3回欠席(1点)とする 以上の総合得点が60点以上及び出席率80%であることを合格基準とする								
↓判定方法\該当する観点→		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	評価配分%	成績評価基準
①成績判定試験		1位	2位				70	秀(S):100点~90点
②確認テスト							なし	優(A):89点~80点
③課題レポート			1位	2位			10	良(B):79点~70点
④授業態度				2位	1位		10	可(D):69点~60点
⑤作品							なし	不可(E):59点以下
⑥出席				2位	1位		10	
							不合格の場合	再試験1回まで実施

シラバス作成者	井田 亜由美	シラバス承認者	井田亜由美	授業担当教員	細川 敏史
				実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/

更新履歴

シラバス更新履歴	更新理由	更新箇所	作成者	Checker(確認者)
改1				